

## 無限の可能性を秘める3Dをモノづくりに活用―地域高度化研究協会

08年8月、任意団体「地域産業イノベーション・グループ」が提案した、インターネット上の仮想空間「セカンドライフ」に東京都大田区の集合工場を作るという試みが、経済産業省の地域資源活用販路開拓等支援事業に採択された。世界へ大田区のモノづくりをPRし、販路拡大を図るのがその目的だ。

採択決定後、入居企業を集め、多言語ポータルサイトのシステム構築も行った。外部のブレーンには、日本にセカンドライフを普及させた一人である、デジタルハリウッド大学院大学の三淵啓自教授を招くなど、手を尽くしたが、支援事業の期間が09年3月までということもあり、「実際、作ったところで終わってしまった」（奥山睦会長）という。また、時期を同じくして起きたリーマン・ショックで、「なかなか活動が思うように進まなかった」（同）とも話す。

事業終了に伴って、このプロジェクトを存続させるために「地域高度化研究協会（RARA）」というLLP（有限責任事業組合）を発足させ、運営を同協会に移管。組合



写真9 「3Dの可能性は無限」と話す奥山睦代表

員名簿には地元大田区のモノづくり企業、堀越精機の堀越秀昭社長や三信精機の斉藤与志行統括部長らの名前が入る（写真9）。

現在、セカンドライフ上のSIM（島）の中にある巨大な工場「Metal Otaku」には参加企業の概要を作り、また、クリックすると各企業のサイトに移るようになっていく。将来的には、ここから仕事の受注も行っていくようにしていく考えだ。

今後の見通しについて奥山代表は「セカンドライフそのものというより、3Dが無数の可能性を秘めている」と話す。10年10月の羽田空港の国際化と相まって、3Dが大田区のモノづくりと世界を結ぶ架け橋となる可能性は大いにある。